

KOGANECHO BAZAAR 2019

New Menagerie

2019.9.20-11.4

アーティストプロフィール

アカサ・ブックストア Akasa Bookstore

2017年、アルフィア・ラディニとアスリー・トレスナディ、ユッサン・アフマッド・ファウジにより昔ながらの市場パッサール・チハピット（バンドン・インドネシア）に本屋として開業。書籍販売の他、ログ・プスタカ出版やティー・バー運営、シャイフル・ガリバルディ、本間メイなどとアートプロジェクトを行う。



Akasa Bookstore

アヌラック・タンニャパリット Anurak Tanyapalit

1992年、タイ・プレー生まれ。現在チェンマイを拠点に活動。2016年タイ・チェンマイ大学芸術学部卒業。彼は絵画、インスタレーション、サイトスペシフィックワーク、パブリックアートなどの異なるメディアを横断するような作品を制作。科学分野や都市化、日々の生活におけるプロセスに興味を持つ。こうした彼の関心は様々な物に疑問を投げかけるような実験的な作品につながっており、結果として彼の近年の展覧会における興味深い作品たちを生み出した。



What Should I Do When The Show is Over?, 2014

天草ミオ Mio Amakusa

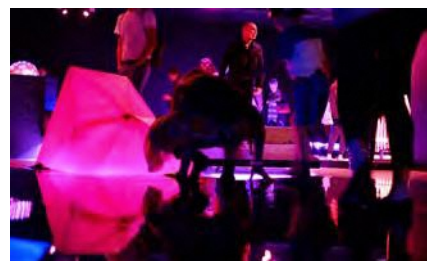
1990年、埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。少女のイメージやぬいぐるみなどを使って、ドローイングやオブジェ、パフォーマンス作品を作る。近年は透明な紙に裏から描く、レイヤーが逆転したペインティングを中心に制作している。「BankARTAir2017」参加。「彼女を捕まえるための方法」(2016、新宿眼科画廊)。「SENTIMENTALGAG」(2014、新宿眼科画廊)。



《Never let her go》2018年

エレナ・ノックス Elena Knox

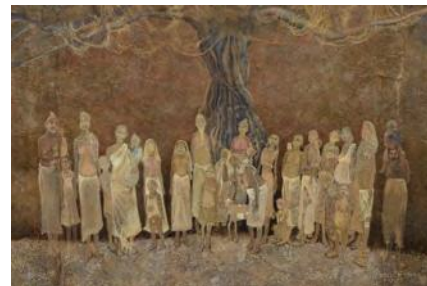
現在東京を拠点に活動。早稲田大学基幹理工学研究科表現工学科表現工学専攻で研究を進める。オーストラリアのニューサウスウェールズ大学アート&デザイン学科メディアアートコースにおいて、彼女の博士論文は大学院研究部門にて優秀賞を受賞。彼女はデジタルメディア、パフォーマンス、彫刻、サウンド、音楽そしてインスタレーションなどの分野を横断した作品を制作。彼女は、人間が自分たちとは異なるものとの共生を図る力、つまり自然現象でさえも共同体の一部に組み込み、宇宙における究極的な人間の孤独を押し返す力となるトーテミズムやフェティシズムといった原始的な衝動に、人々を掻き立てる。



Snoosphere, 2017, installation (with Lindsay Webb), photo | Lindsay Webb

シジ・クリシュナン Siji Krishnan

現在インド・コチを拠点に活動。2005年にケララ州ラジャ・ラヴィ・ヴァルマ美術大学で学士号を、2007年にハイデラバードのサロジニナイドゥ美術学校で修士号を取得。彼女にとって絵を描くことは、身体的な感覚とその記憶を記録するとともに、過去の経験を思い返すと同時に現在の感覚を過去と結びつける行為である。媒体となる紙の上で、像とジェスチャーを混ぜ合わせることで、その表面は、寝ている間にとっても繊細な夢がまぶたの裏に映し出されているように、うっすらとした感覚のフィルムとして動き始める。ライスペーパーを中心に作品を制作する過程において、記憶、隠喩、および個人史に官能性、繊細さと習熟さを得ていく。



Father's Portrait, 2016, watercolour on rice paper

<本リリースに関するお問い合わせ>

黄金町エリアマネジメントセンター 横浜市中区黄金町1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net (広報担当: 立石、神田)

程仁珮 (チェン・レンペイ) Cheng Jen-Pei

1983年台湾・高雄市生まれ。現在台北を拠点に活動。パフォーマンスやプログラムアートを中心に制作。食品研究や作品制作のため、フランス、ベトナム、フィリピンなどでレジデンスプログラムに参加した。歴史や文化のなかで「食」「たべもの」がどのように表現されてきたのかに関心を持ち、そして、文化的違いとして現れる地域ごとに異なる食の状況や習慣に関して探求する。2014年夏から、パリにいる見知らぬ人と行う、食文化と記憶の関係に焦点を当てた長期プロジェクトを始めた。



Recipe evolution movement
食譜演化運動,
2017-Now,
Photography and
Mixed media

曹澍 (ツァオ・シュウ) Cao Shu

現在中国・杭州を拠点に、ニューメディアアートの部門で活躍。中国美術学院インターメディアアートスクール卒業。主に3Dレンダリングアニメーションとインスタレーションの作品を制作する。近年、CG技術を用いて、個人の記憶と夢の断片について行ったリサーチをベースに、CG空間における名づけがたい経験について探求する。



Tristes North Temperate Zone, 2018

土本亜祐美 Ayumi Tsuchimoto

1987年、広島県生まれ。2011年広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科メディア造形分野を卒業後、現在は東京を拠点に活動。土地や環境、人からインスピレーションを受け、個人の内的表現に停まらない、地方の地域に積極的に介入したアニメーション表現を模索し、手書きやデジタルドローイング、実写を映像内で意図的に組み合わせた短編アニメを主に制作。



黄金町バザール 2019 イメージ画像

常木理早 + 要田伸雄 Risa Tsunegi + Nobuo Yoda

常木理早 | 1982年、群馬県生まれ。現在、東京・神奈川を拠点に活動中。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインにて絵画を学び、2009年グラスゴー芸術学校にてMFAを修了。絵画の陰影や形の重なりによる、実際はないのにあたかもあるように見える奥行きと素材そのものへの興味から表現形態が平面から立体に移行。現在は形、重さ、重力、空間を分割する作品のあり方を探っている。



《Arch Pipe》2018年

要田伸雄 | 1983年、大阪府生まれ。現在、東京を拠点に活動中。2007年ゴールドスミス・カレッジ・ファイン・アートにて Contemporary critical studies を修了。日常生活や身振り、映画や小説を含むフィクションなどの観察からそれらの構成要素を選び出し、物質的なものと非物質的なもの（気分、感情、レトリックなど）を同じ次元の素材として扱い、作品において再配置する。



《waiting》2017年

ナリッサラ・ピアンウィマンサ Narissara Pianwimungsa

現在バンコクを拠点に活動。2004年にシラパコーン大学美術分野絵画コースにて修士号を取得して以来、画家として活躍。2016年には、同大学より第15回 Silpa Bhirasri Creativity Grants を授与され、絵画から刺繍へとスタイルを変え、作家のかねてよりの関心事であった、2つの芸術形体間の類似点やこの新しい方向性の有用性をテーマとした展覧会にてアートシーンに復帰。その態度が作品のメディウムよりも、重要であると信じている。



A New Interpretation of the Paradoxical World, 2017,
Nova Contemporary

<本リリースに関するお問い合わせ>

黄金町エリアマネジメントセンター 横浜市中区黄金町1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net (広報担当: 立石、神田)

ニワニワパラダイス Niwa Niwa Paradise

日本独自のおもてなしを再構築し、宇宙人（共通認識を持たない相手）を含めた全対象へ表現するクリエイティブユニット。ディレクターの佐藤壮生、アーティストのコタケマン、モデルの池寄瑞希、セラミックアーティストのMy ceramicsを中心に、分野を横断したコラボレーティブな創作活動によって、アートが社会と関わる新しい形を目指している。



黄金町バザール 2019 イメージ画像

葉栗翠 Midori Haguri

横浜生まれ。2009年に武蔵野美術大学卒業後、中国に渡り、2012年に帰国。その後本格的に絵描きとして活動を始める。現実の場面を平面に描き、それを元に立体作品も制作。モチーフとして選んだ土地の、普段は見過ごされている記憶を呼び起こし、平面と立体、複数の現象が1つの現実になったり、1つの現象が複数の現実になることに関心を持ち、制作を行う。



《zoo(アシカ)》2019年、和紙にアクリルと岩絵具、30x30cm

吉田ゆう Yu Yoshida

1986年、神奈川県生まれ。現在、黄金町AIR 2019参加中。2010年女子美術大学大学院美術研究科修了。主にサメをモチーフとし、日常風景にフィクションである事件を起こす。その場면을写真や彫刻、インスタレーションなどをうい制作。サメという普遍的な恐怖の象徴をアイコンとし、普遍的な風景を人と環境との関係や構造を通じて見つめ直す。



《かつて海だった場所》2019年、インクジェットプリント

吉本直紀 Naoki Yoshimoto

映画・映像作家。2013年夏から黄金町AIRに参加。2015年「横浜市・成都市AIR交流事業」日本アーティストとして中国・成都でのAIR制作により映画「変異ノ夢」を制作。黄金町バザール2018「pass by」展に「psychocinesis≒photogenesis」で参加。



《1/3の発光》2018年、iPhone、海鷗 二眼レフ、After Effects、HD

レイモンド・ホラチェック Raymond Horacek

マサチューセッツ州郊外の自然の中で生まれ育ち、大学時代にアメリカとフランスでプロダクトデザインを学ぶ。幼少期から興味のある日本文化から着想を得て、人、テクノロジー、自然との結びつきを探求する作品を制作し続けている。またこの探求はフットウェア、ウェアラブルテクノロジー関連の商品をデザインする際にも及んでいる。



Mirrored Presence 6, 2017, Mixed media

<本リリースに関するお問い合わせ>

黄金町エリアマネジメントセンター 横浜市中区黄金町1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net (広報担当: 立石、神田)